

## インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合

Reintegration towards the life stage after returning home of Indonesian migrant workers

中谷 潤子 (NAKATANI Junko)

本研究は、近年増加している海外への労働移民のうち、インドネシア人移住労働者を対象に、海外労働を終え帰国してから、インドネシアで次のライフステージをどう構築しているのかを明らかにするものである。海外労働移民を扱った研究のうち、帰還後について、地元で生きていくための課題、そのための支援体制などに着目した研究は多くない。

初年度である平成 29 年度はフィールドでの調査が中心だった。それに続き、平成 30 年度もフィールドワークを予定した。しかし、9 月の東ジャワ調査は台風 21 号による関西国際空港の機能不全で渡航を中止せざるを得なかった。しかし、11 月には 2017 年に続く台湾共同調査を行った。1 年ぶりに訪れた移民コミュニティでは、組織自体の発展と変容、しかもそれがメンバー自身の手によって行われているというまさに自立的側面に触れることができた。再訪問することで支援側と移民側の双方について知ることができた。

平成 30 年 2 月には、9 月にキャンセルしたインドネシア訪問をかなえることができた。まずは西ジャワ州バンドンの外国語大学 SEKOLAH TINGGI BAHASA ASING YAPARI-ABA BANDUNG での国際セミナーCALLS に招待スピーカーとして参加し、移民の言語習得に着目した講演を行うチャンスを得た。その後、東ジャワ州に移動し、これまでの調査フィールドの継続調査を行った。衰退する組織、発展する組織に触れ、自立と組織運営に必要な要因を検証した。また、これら活動に欠かせないアクティビストの活動とその必要性を理解すべく数人に詳細な聞き取りを行った。

研究も二年目を迎え、成果を発表する機会もあった。12 月には新しく発足したインドネシア研究懇話会でこれまでの東ジャワ調査について発表した。また 3 月には台湾の政治大学で行われた国際ワークショップ” Contextualizing Taiwanese & Chinese Presented in Southeast Asia and Southeast Asians in Taiwan- in Both Historical and Contemporary Perspectives.”にて、インドネシアから台湾への移住労働を研究しているとして、” Case Studies of Former Indonesian Foreign Labors in Javanese Villages” というタイトルで発表した。これら成果発表では、質問やコメントが今後の研究展開への大きな示唆となった。

2019 年度が完成年度の予定であったが、国内留学を予定しているため分野別組織としての研究継続は 2018 年度までだということを後に知ることになった。しかし、研究は継続させて 2019 年度に一つのめどを目指す。